

### 時事新報

慈念ノ程度如何

佛國人が交趾ノ殖民地ヲ據ル安南全土ヲ併吞スルノ志ヲ包  
 藏スルヤ決シテ一日ノ事ニアラズ退テ東京紅河ノ流ヲ溯リ  
 支那雲南省ニ入ルノ商路ヲ獲見セシ以來ハ慈念漸ク烈度ヲ  
 增加シ先ツ其根據地同河ノ三角洲ニ定メ次第ニ上流ヲ溯ル  
 ニ至リテ形ノ如ク其地方ノ土人ヲ驅逐シテ生シ争論絶エ間アル  
 コトナレバ此中東京ノ黒旗黨ト稱スルモノ最モ佛國人ヲ拒クコ  
 カヲ尽シタルナリ支那政府ハ居ビテ齒ノ塞カラントテ恐  
 レ安南爲中國ノ屬邦ノ議論ヲ押立テ、佛國ヲ退ケントスル  
 ノモノナラズ竊カニ境上ニ兵ヲ出シテ黒旗黨ニ聲援シ佛國人  
 ノ進路ヲ遮ラントセリ此時ニ當リ安南ハ尙ホ獨立國ノ名ア  
 リテ未ダ十分ニ佛國ノ制御ヲ受ケズ順化府中央政府ノ政令  
 國中ノ普及スルヲ能ハズト雖モ尙ホ吏人ヲ東京ニ派シ  
 テカチ黒旗黨ニ添ルノ手段ハ決シテ之ヲ忌ミテ防グリナリ依  
 テ佛國ハハ東京地方ニ在リ且ツ攻メ且ツ防グキ苦經營ノ傍  
 ニ新ニ安南國ト一紛議ヲ生シ突然順化府ヲ砲撃シテ城下ノ  
 盟ヲ爲シ安南全國ヲ擧ケテ名ハ佛國ノ保護國ト唱ヘナガラ  
 其實ハ全ク附庸ノ殖民地ニ變セシメタリ是ヨリ以後佛軍ハ  
 後顧ノ憂ナク力ヲ専ラシメテ東京ヲ經略シ次第ニ黒旗及ヒ  
 支那軍ヲ退ケテ遂ニ其全土ヲ占領スルニ至リタリ此時ニ當  
 リ佛國人ノ意中ヲ推察スルニ未ダ必ズモ支那帝國ヲ奪フ  
 ノ計畫定マリ居タリトハ思ハレズ蓋シ佛國人ノ慈念熾ナラ  
 ザルニアラズ兵力強カラザルニアラズト雖モ公然東洋ノ最  
 大帝國ヲ敵手トシテ一戰ヲ試シマデノ決心ハナカリシモノ  
 ナラン然レモ安南ノ争論歲月ニ亘リ佛清ノ關係漸ク密接シ  
 増スニ至リテ佛國人モ漸ク支那ノ内情ヲ詳カクシテ一步ヲ進  
 メニ歩ヲ進ムルニ隨テ益々外ナル聲明ヲ爲スコト多ク遂ニハ  
 當初此帝國ニ對シテ幾分ノ敬意心ヲ抱キテハ全ク見込違ヒ  
 ナリト恨ラシクハ最初ニ斷然シテ處置ヲ施シ大ニ我版圖ヲ  
 擴メ威光ヲ耀カスノ策ニ出テザリシコトヲ只當初ノ規  
 模ノ過小ナリシヲ悔ヒ佛國人ハ心漸ク奮進ノ傾向ヲ示セタ  
 ルハ今ヨリ六七箇月前ノ事ナリト左レハコトヤ彼ノ天津條約  
 ノ如キ唯支那ヨリ償金ヲ出スノ一事コトナケレ安南東京ノ  
 全土ヲ擧ケテ佛國ノ所領ト爲スノコトナズ剩サヘコレニ接  
 スル支那帝國ノ三省ヲ開キテ佛國人ノ自由貿易ニ供セタル  
 程ノモノナレバ佛國人ガ失ヒシ所ノ小額ノ勞役ニ對シテハ  
 甚ダ過當ノ報酬ナリト云ハザルヲ得ズ然レモ既ニ支那人ノ  
 伎倆ヲ洞見シタルノ今日佛國西共和政府ハ此過當報酬ヲ得  
 ルモ取テコレニ満足セズ尙ホ何ヲガナト思案ノ最中幸コシ  
 テ佛國ノ一敗アリ此損失ヲメカフズト本然ニ億五千萬  
 フランクノ償金ヲ支那政府ニ要求シ談判ノ始終迄モ郵船  
 事件ノ曲直佛軍清軍其孰孰レモ在リヤテ論究スルコト否ヤル  
 大唯我レハ足下ニ向テ償金ヲ要求スコレヲ諾スルト否ヤル  
 トハ足下ノ意見ニ任ス諾カ否カ唯一言ノ返答アレバ否ナレハ  
 則チ戰フノコトアリテ佛國政府ノ舉動最モ可シキ事ナリ

カナラザリシカトモ支那政府ニテハ尙ホ未ダコレニ應スル  
 ノ色ナク荏苒日ヲ暮ラシテ機ヲ誤マルノ恐アルニ至リ忽チ建  
 議ヲ砲撃シテ以テ平和ノ望ヲ絶テ兎角スル間ニ公然福州ニ  
 開戦シテ全ク兩國ノ交ヲ絶テタルハ佛國政府ノ身ニ取リテ  
 無ガシ本望ノ事ナレバ

サテ今日佛國軍略ノ在ル處ヲ察スルニ二十年前英國ノ聯合  
 軍北京ヲ乘取リタルノ例ニ因ラズ先ツ雞籠、福州等ニ占  
 據セントスルハ蓋シ其意ノ在ル處支那モ廿年前ノ支那ニア  
 ラズ天津ノ門口ヲ打破ルモ決シテ廿年前ノ攻勢ヲ以テ足  
 レリトスベカラズ必ズ先ツ適宜ノ地ニ根據ノ場所ヲ設ケ  
 漸ク進テ門口ニ迫ルノ計ヲ爲サザルベカラズト云フコトヤ  
 ラン故ニ先ツ雞籠ノ石炭坑ヲ福州ノ造船所ヲ取リ軍需兵  
 仗ノ供給ニ不足ナカラザルモノ用意ヲ了リタル上ニテ更ニ  
 其力ヲ他方ニ伸ベントスルコトナランカ果シテ然ラバ安ニ佛  
 軍ノ舉動ニ付一ノ不審ト云フベキハ八月五日雞籠港ヲ砲撃  
 ノ後永クコレニ占據シタル様子モナク又廿三日福州港内ニ  
 テ開戦シタル時馬尾ノ造船所ヲ砲撃シテ徹夜ト爲シタリ  
 ト云フガ如キ甚ダ無謀ノ處置タルヲ免カザルベシ何トナ  
 レバ石炭坑ハ其地ヲ占領シテ其石炭ヲ採掘シ造船所ハ其諸  
 器械等ヲ整備シ留置キテ急需ニ應ズレバコト軍需ニ大用ヲ爲  
 スナレ唯コレヲ砲撃シタル儘ニテ棄テ、守テ造船所一  
 切ノ構造ヲ破壊シテ殘ス所ナクテハ此兩處ヲ軍用ニ供スル  
 ノ目的ニ阻礙セザルヲ得ズ佛國軍軍ニテスル事理ヲ辨セ  
 ザル等ナキニ其實跡ニ於テ然ラザルハ何ゾヤ察スルニ支那  
 海佛國ノ軍備尙甚テ手薄ニシテ永ク雞籠ヲ守ル餘裕ナク  
 又福州港ノ戰ニ於テモ成ル可クハ無敵ニシテ造船所ヲ奪フ  
 ノ手段ヲ廻ラシタルナランナレト思ヒ、外ニ支那軍ノ抗  
 強ク止ムヲ得ズ大切ナル造船所ヲ破壊シタル譯ニテモア  
 ランカ殊ニ今日ニ至リ佛國艦隊ガ福州閩江沿岸ノ砲臺ヲ破  
 壞シテ了リテ忽チ他ノ方向ヲ轉シタルヲ見レバ目下唯出沒各  
 要衝ノ地ヲ攻撃シテ只管破壞ヲ主義トスルモノ、如ク  
 然リ是全ク兵力ノ未ダ十分ナラズシテ尙ホ待ツ所アルガ爲  
 メナランカ以上ハ今日マデノ戰況ナリト雖モ斯ル小仕掛ケ  
 ノ争闘ニシテ今回ノ紛議ヲ終ルベシトハ思ハレズ必ズヤコ  
 レヲ手始メトシテ更ニコレニ幾十倍スルノ大舉動アルノ後  
 ナラバハ迎ヒ難ク和陸ノ沙汰ヲ開クコトナカレバ左ニスレ  
 バ佛軍ハ是ヨリシテ何等ノ處置ヲ爲サントスルカ先ツ江蘇  
 福建、浙江地方ヲ略取セントスルカ或ハ北ニ進テ北京ニ迫  
 ラントスルカ又或ハ遠ク南ニ去リテ廣東、廣西、雲南地方ヲ  
 侵略セントスルカ其定算ノ何レモ在ルカハ我輩ガ今日ニ應  
 定スルコト能ハサル所ナリ然レバ我輩ガ今日ニ明言シテ支  
 ナキ一事ハ佛軍ノ尙ホ甚テ手薄ナル事是ナリ佛軍ニテ果  
 シテ閩浙地方ニ據ルモ或ハ北京ニ進メ又或ハ兩廣雲南ヲ侵シ  
 ノトスルモ寧アルカ逆モ今ノ東洋艦隊數十隻ノ兵力ノモ  
 タ足レベキニアラズ故ニ佛國ニシテ今日直ニ其對家長蛇  
 ノ意ヲ満足セシメントスルノ決心ヲシテハ我輩ハ一日ナラ

ズテ數萬ノ佛軍本國ヲ發シテ支那ニ向ヒタリト電報ヲ  
 接スルコト必然ナラント信スルナリ

○八月二十九日龍動發 スタフエンソン氏カナイル河の隣  
 (按せるにナイル河は上流に遠征軍を送りてゴルドン將軍  
 の危急を救ふと云ふ)は實行する事能はずと述べらるるに  
 依りサリ、ガーネットウオースレー氏は、實地見分の爲め  
 か)埃及に派遣せられたり

○八月二十一日龍動發 十四日以内にセロ號の水夫を渡  
 可決書をテノム王に送り、水夫は無事なり、右の電報中  
 十四日以内に云々の決書を送りたりとあるは先ホセロ號水夫  
 抑留事件を辦理せる爲先英國政府より派遣せられたるマキ  
 スウエル氏よりテノム王に決書を送りたるとあるべし)

### 電報

○佛國の援軍 一昨日の號外(本日附録)に佛國の運送船  
 三艘東京へ赴くの途次援兵并に兵糧を載せて去月五日佛國  
 のアレスト港に到着し、その報を載せしが今七月十八日  
 發兌の龍動支那新聞を見るに「巴黎に新聞紙が據れば佛國  
 の東京の佛兵を援くる爲先八月一日を以て一千二百人の  
 海兵を東京へ送り又九月初旬に龍動中の志願兵より成れ  
 る歩兵一千二百人を同地方に派遣すべしと云へり」と見ゆ  
 されば右のアレスト港に到着したりと云へる援兵は八月初旬  
 又同處を立したる者なるべし尤も右は佛清事件未だ解決  
 せずとある前の事なれば其兵數も多からざれば其今度既に戰  
 争となりたる上の佛國より更に之を數倍する援兵を派遣せ  
 るに至るとならん

○我が龍動と砲撃せんとせしに非ず 香港支那新聞が佛軍  
 台灣の龍動を砲撃したる時の事を記したる一項、同處に據  
 したる私備めては佛人が最初龍動に赴き、ふるは砲撃せざせ  
 んとの恐慮は一すもあるとるく唯石炭買入れのためありし  
 二艘の石炭商人ハ目下佛清の不和を見て龍動を棄明せ

○郵船會社 郵船會社ハ佛國ノ運送船三艘東京へ赴くの途次援兵并に兵糧を載せて去月五日佛國のアレスト港に到着し、その報を載せしが今七月十八日發兌の龍動支那新聞を見るに「巴黎に新聞紙が據れば佛國の東京の佛兵を援くる爲先八月一日を以て一千二百人の海兵を東京へ送り又九月初旬に龍動中の志願兵より成れる歩兵一千二百人を同地方に派遣すべしと云へり」と見ゆされば右のアレスト港に到着したりと云へる援兵は八月初旬又同處を立したる者なるべし尤も右は佛清事件未だ解決せずとある前の事なれば其兵數も多からざれば其今度既に戦争となりたる上の佛國より更に之を數倍する援兵を派遣せらるに至るとならん

○石炭買入れ 佛國ノ運送船三艘東京へ赴くの途次援兵并に兵糧を載せて去月五日佛國のアレスト港に到着し、その報を載せしが今七月十八日發兌の龍動支那新聞を見るに「巴黎に新聞紙が據れば佛國の東京の佛兵を援くる爲先八月一日を以て一千二百人の海兵を東京へ送り又九月初旬に龍動中の志願兵より成れる歩兵一千二百人を同地方に派遣すべしと云へり」と見ゆされば右のアレスト港に到着したりと云へる援兵は八月初旬又同處を立したる者なるべし尤も右は佛清事件未だ解決せずとある前の事なれば其兵數も多からざれば其今度既に戦争となりたる上の佛國より更に之を數倍する援兵を派遣せらるに至るとならん

### 佛清事件

○警備艦 本月廿三日長崎港を發したる警備艦は同廿六日上海に着したり

○パテノートル公使 會國基が上海を去りて南京に歸りたる後佛國公使パテノートル氏の去留未定は未だ何たる報道を得ざりしが近頃發兌の香港日々新聞を見れば同氏と同國軍艦に乗りて上海を去りたりと見ゆ但氏は上海より直に本國に向け歸途を就きたるか又は尙軍艦に留まりて支那近海に在るの未詳なり

○佛軍即松を略せんとす 雲南廣西二省の支那兵が東京の境内に攻入り佛國の堡塞を攻落したりとの風説は先に我紙上にも掲載せしが此程東京屯駐佛軍の總督將軍モロイ氏は佛國政府より重兵を以て即松を奪取し支那兵が境を跨へて東京を侵すを防止むべき旨を電報にて命せられたる由香港日々新聞に見ゆ

○佛國の援軍 一昨日の號外(本日附録)に佛國の運送船三艘東京へ赴くの途次援兵并に兵糧を載せて去月五日佛國のアレスト港に到着し、その報を載せしが今七月十八日發兌の龍動支那新聞を見るに「巴黎に新聞紙が據れば佛國の東京の佛兵を援くる爲先八月一日を以て一千二百人の海兵を東京へ送り又九月初旬に龍動中の志願兵より成れる歩兵一千二百人を同地方に派遣すべしと云へり」と見ゆされば右のアレスト港に到着したりと云へる援兵は八月初旬又同處を立したる者なるべし尤も右は佛清事件未だ解決せずとある前の事なれば其兵數も多からざれば其今度既に戦争となりたる上の佛國より更に之を數倍する援兵を派遣せらるに至るとならん

○我が龍動と砲撃せんとせしに非ず 香港支那新聞が佛軍台灣の龍動を砲撃したる時の事を記したる一項、同處に據したる私備めては佛人が最初龍動に赴き、ふるは砲撃せざせんととの恐慮は一すもあるとるく唯石炭買入れのためありし二艘の石炭商人ハ目下佛清の不和を見て龍動を棄明せ